

大正十年頃と思われるが、事があつて、其の當時の日
第一次世界大戦の後で戦争の本の経済界も大きな変動が

あつたらしいが、中学の二

三年生の昔々には何の事も

解らなかつた。当時のS校

長先生もあまり才が高くな

かつた様に記憶するが校庭

に朝礼用の台を作つて毎朝

「今後……を厳命する」

とやつたので、上級生が厳

令台と命名それが原因した

かどうかは解らないが、学

校の生徒のお互の事は自分

達でやつて行くとかで校長

や先生に御世話掛けけない

で自治的にやる上中会が生

れた。その上中会がどんな

風に運営せられたか当時の

連中は覚えがあると思う。

講堂や十二階段で「お説教

が盛んだった。上中から松

尾高様に、昔とは生徒の年

齢も違つたところが、在校

諸君が、どんな風にされる

か、これは静かに考へて只

学校ばかりの事でないと思

う。校長が上級生と交つた

だけでほんとの自治……民

主化が行われるかどうか。

△應 援 歌

「松尾城頭寄風」―昔々上

中二十四回卒業生が上田と

東京に卒業以来二十五年間

に数多く集つては昔語をし

て最後には何時も此の歌で

子供時代を思い出す。昔々

在学中に校歌が出来たが余

りピンと来ない。他の卒業

生の諸兄も大体そうらしい

が、各種の運動競技、勝負

どちらにも歌詞や曲の良否

な事を考へて見た。

昭和四年の夏英國リベパ
ールに開かれた少年團世界
大会に日本代表の一人とし
て出席した者の思出である
が、ロンドン見物ではロン
ドン塔、タワーブリッジ、
ウェストミンスター寺院、
其他色々あるが、ロンドン
郊外にあるイートン中学の
古びた校舎と其の教室の中
に這入つて驚いたことには
何百年前からの机や椅子が
そのまゝ使われている事だ
つた。しかも其の机や教室
の柱や壁は勿論、天井に迄
小刀で彫り上げたイニシヤ
ルだの色々文字が整然と
云うか雑然と云うか見事な
彫刻として彫られている。
之等の中には英國の歴史に
際として輝く有名な人々の
名が見られる事であつた。
先日、母校校長北島先生
の御案内で焼失後の復興状
況を見て戴いた時、東南
隅にあつた古い校舎で室の
真中に柱があつた教室、あ
れは昔々が一年生の頃失火
り燃焼盛りの無防備であつた
現に角小刀彫刻があつた等
だつたのに、焼跡の側に立
つていた何百年の古木
に聞いて見たくなつた様な
気がした。最近新しいもの
流行でしかも三日坊主的な
物の考方の多い時、古くて
も良いものは大切に保存す
るといふ英國人の氣持、又
其処から生れて来る、「粘
り」といふ様なものに強い
魅力を感じさせられた。先

日上田球場で上中の野球試

合を見せ貰つたが元氣な

諸君の好技に感心した。し

かし、昔々もそうであつた

様に何となく試合にしても

何でも「粘り」の点に欠け

るものがあつた様に感じら

れた。焼けた古教室は元の

通りにはならないが上中

も何年以來の獲得な良いも

りである筈だ。形の上ばか

りでない傳統を感した。

△先 整

英國からニューヨークへ

當時とすれば大西洋の豪華

船キウナード・ラインのベ

レングリア号の船室へ小生

宛の電報が届いた。大西洋

の真只中へ誰か打つてくれ

たのか。出発前に在ニウヨ

ークの上中の先輩水野健吉

氏に簡単な手紙を添上げて

置いたよけなかに……今日

ニューヨークへ着くと言ふ

朝デツキに出ると、あゝあ

の自由の女神、其の向うに

水晶の結晶の様な高層建物

がぐんぐん迫つて船がハド

ソン河の岸に着いた時、一

面識もない先輩に異國で出

迎を戴いた感激は一生忘れ

られない。終戦後初めて

国際会議（本年六月佛國ペ

リとリオンに開かれた國際

娯樂大会）に参加した日本

娯樂業者九名の連中が往復

ともニューヨークに立寄つた

ヨーロッパから米國に行つ

た人の感じを誰に聞いても

は全く違つてゐる競争中に
下街の汚い建物はどしどし
取壊し新しい建物が出来て
いる。屋根の上を走つてい
た汚らしい高架鉄道は全部
地下鉄になり街々の塵や紙
屑が一つもない。只それだ
けではない。廣島や長崎に

中學時代の思い出

10回 宮入清四郎

投下された原子爆弾もはや
三年前の事だ。アメリカの
科学が猛烈なスピードで進
んでいる産業、文化に原子
力の應用がどこまでいつて
いるか。何時追いつけるや
ら若人の奮起を期待する。
(昭三、九)

創刊号には幾分なりとも
在籍生諸氏の参考の資にも
と一高時代の追憶の短篇を
草した次第であるが、私が
上田中学校入学の頃は日露
戦争が終末を告げて國民が
戦勝気分を酔つてゐた頃で
あつた。一年生の五月頃と
記憶しているが伊藤元帥、
東郷大將、村上大將の三將
軍が上田へ來られて中学で
は三將軍を迎えて、講演會
月桂樹の手植などして大盛
をやつたものである。伊東
元帥は、是皆胆、東郷大將
は、奮勵努力、上村大將は
忠孝とそれら揮毫して現
在寶物となつてゐる筈であ
る。この年の秋には乃木大
將も上田へ來られて、上中
へ立ち寄りつて生徒に激励
の講演をせられやう月桂
樹の手植をされた。

三年時代のことを思う。
確かに二学期頃と記憶するが
代數の先生が予告なしで試
験をしたので乙組の外の組
は「ボイコット」をし私の
組も参加する様すめられ
たが、私は頑として應じな

中島で、武田、上杉時代を
偲ぶ大演習を舉行したので
あるがその時の校長宮本右
次先生に私達は五年生代表
が、大演習参加の希望を申
し述べ、師團の許可を得て
三年生以上が堀内聯隊に属
すことになり、第一夜は翌
野在若槻村で村落警備、第
二夜は川中島武田信繁の墓
のある天球寺で宿泊したの
であつた。その間は凡て軍
隊と同じ行動をとつたので
あるが、未だに私達友人間
でその頃の思い出が交され
てゐるがそれ程よき思い出
となつてゐる。

五年になると兄等は私の
將來についていろいろ協議
してくれた。兄等は専ら私
を海軍兵学校の入学試験を
受ける事をすすめてくれた
しこれは以外な所で、私
の第一高等學校入学という
ことになつた。恰もその時
高等學校の無試験入学とい
う制度が設けられ宮本校長
が無試験入学の可能性が十
分であると折紙をつけて下
さつたことである。そこで
彼を負うて上京する事にな
り久米正雄氏の叔父久米助
三郎氏の下宿に居介になり
勿論受講の覚悟で神田錦町
の正則英語學校へ通ひ、斎
藤秀三郎、佐川春水氏等よ
り、英語の教授を受け入学
試験は七月十一日であつた
のであるが無試験入学は六
月二十一日発表で、その日
は朝日の出ぬ中から田中辰
之助君と一高へ馳けつけ、

掲示板へ張り出された許可
名の三部（當時は三部とい
つていた）を見ると私は愕
然とした。私の受験番号で
ある三部三番が鮮やかに落
されてゐたのである。もは
や東京にいる必要はないの
で早速歸郷した、上田中学
校へ行き宮本校長、山口教
頭、安藤（英語）教頭、中
島（物理）、滋野（英語）
池田（國語）、宮下（数学）
常井（國語）、その他先の
生にお礼報告をしたのであ
つた。

斯くして私の上中生活は
終わり、一校時代となつた
頃は上中生輩土居増次郎、
金井章次、高橋信美諸氏の
発起で上中会を盛大に開能
「東千山」の歌に大いに
上中健児の意氣を発揮した
ものであるが、其の後中絶
の止むなきに至つた所、今
回東京在住者の熱烈なる努
力、北島校長先生始め同窓
諸先生の絶大なる御配慮で
東京上中会が発足、去る五
月九日豊島岡で数十人會し
北島校長先生御臨席の上総
会を開能し和氣あい／＼の
裡にお互上中時代追憶に過
したのであるが唯欣快の念
と感激を禁じ得なかつたの
である。殊に席上私が東京
上中会支部長の推挙を受け
た事は淺学非才、何とも恐
縮してゐる。併し人生意氣
に感じ出来る限り努力す
る覚悟である同窓会員諸氏
の絶大なる協力支援を希望
して止まない次第である。

……
……
……

校長 北島修一郎

性格は、個人の尊厳を重んじ、平和的な社会及び國家の形成者として眞理と平和を希求し、勤勞と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身共に健康な人格にある。

に業を修め、懐しき松尾城下
に思い出と誇りとを持つ同
窓諸兄は母校を中心としし
て相倚り相扶けて、親愛と
友和の絆をより強くして頂
きたい。

先輩の支持と信頼と指導
の上に我等も亦最善を盡す
べく念願して止まない次第
である。

同年十二月某日、予め金子行徳さんにも通知し、又小泉清見さんにも通知し、湯後と思ひ三人落ち合ふ手廻をして出て行く。智苦庵前早く着く。病人は例により挨拶もせず寝て直に胸を披け。

「オイ診テクレヤー」
「ヨシ〜」直に調ぶ。

智
苦
庵

憲法の制定は民族更生の指
標であり、教育基本法の発
布はそれが道程を示し、学
校教育法による六三制の制
度刷新はこれが具現に外な
らない。そして今般実施の

智 苦 庵

「ソシナ事解ルカ? 森サ
シモソウ言ツタ。下廻ガエ
ルヨ、大脇ジヤナイカ」
「ソーシヤナイヨ。大脇ヨ
リ前ノ方ダヨ」

教育委員会法は教育の民主化、自主化、地方化を完成

パチリ／＼して智苦庵の後からノゾ／＼ついて来る。

智苦庵痛とも言えず、腫物とも言えず、多少の医学

なるべきものである。凡ゆる困難を克服して、これら

店員も預金者でもない人が
ツカ／＼奥へ入つて来るの
で挨拶もしないで鳩豆式の

的智識ありし爲の苦心——
驢は言いたくないし、本当
は話せないし、苦しみ苦し

一連の教育改革を断行する所に、祖國再建の熱意も見られるべく、國民の決意をも

目でたまげいる。(断つておく智苦庵は医者ではない) 甲田君を娶かせ、腹を開

み抜いたる智苦庵診察日記
右の如し。(2回伊藤源平)

示すべきものと思う。

き胃部を調べる。幾度調べても何も胃の辺にはない。

生を憶ふ

亦丹への力をこの一点に
凝集して、火災に依る損害
の物心両面の復興の完成と

只水落辺りへ半分かけて鶏卵大の手に触れるか触れない位の軟い何かある。それ

國村 上 勇 平

新教育の實踐に邁進して
いる次第である。

を圧しながら
「オイ、コレハナンダ」
「ウソ、コレハナンダ」
「ウソ、コレハナンダ」
「ウソ、コレハナンダ」

君が家を訪ねしことも思ひ出

る上田中学校が、新しい上田松尾高等学校に飛躍発展

ト不快の感ガアル」

志のあり君は惜しがられし

し、教育内容は變つても、それは古き教育殿堂の確固たる基礎の上に、新しい若

「コレガオカシイ!」とてメ
タ／＼臣す。

を浮べし君が面影に立つ

芽が植えつけられたものである。幾多先輩の業績と遺

「解ラヌ、普通ニ癩ナラモ

うつしの和衛君に今日は金

26回 村上 勇平

我が村の先輩として君みましちからとたのみわれは
ひき

たたかひの激しきときに君が家を訪ねしことも思ひ出
ふかし
二千六百年祝賀の召に微恙のあり君は惜しがられしこ

北島校長を復興型と微笑を浮べし君が面影に立つ
背の丈も面影も君に生きうつしの和衛君に今日は会ふ

君が愛子まなこ和衛君はすこやかに総理廳に勤めのませる



(支部便り)

傍陽支部

傍陽支部本年の概況は先ず正月三日の若手卒業生と在校生との懇談会に始まる。傍陽支部は昨年傍陽上中会として宛足以来春秋の総会と講演講習会等を開催して本村文化の推進体となつてゐるが、在校生との隔意なき活潑な議論や進学就職の相談相手はなんとした。此の若手卒業生と在校生との懇談会に負う所が頗る多い。正月休、他出卒業生の帰省中を機としその第三回目を三日午後二時より傍陽青年学校道場で開催した。第四十回以降の若い卒業生を中心に在校生全員、安田海潮、半田、各役員と松沢坂口各長老、母校より竹内先生が臨席同先生より母校及同窓会の近況を承つて安田専任幹事部長となつて、学務事件批判とこれが原稿の検討や、東京方面の修学就職の現況、在校生の抱負に卒業生の意見激励等々午後十時迄議論と歓談は続いた。

母校よりは久保田、高柳竹内の三先生が臨席、三井会長の開会の辞、安田専任幹事の金務会計の報告があつて、母校も愈々松屋高校として新築足するにつれて三先生より交々意義あるお話があつた。久保田先生は東亞同文書院の教授から、高柳先生は新京工業大学の教授から、何れも上申出身の先生で感銘深いものがある。役員改選期で詮議を定めた。懇親宴会は爛漫たる櫻花の池畔で先ず母校の昇格を祝して乾盃大に氣焔を挙げ各自の自己紹介に抱負欲談は夕陽迫るも盡きなかつた。

新役員

会長 三井英一郎 (15回) 副会長 橋詰徳一 (28回) 専任幹事 安田清四郎 (28回) 幹事 三井邦雄 (33回) 半田東平 (28回) 武拾殿 (34回) 柳喜三郎 (40回) 海潮延義 (43回) 半田今朝一 (43回) 堀内茂雄 (45回)

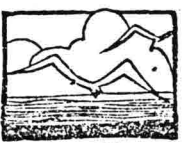
追記、各支部からの野球試合御申出には喜んで應じました。(32回山極記) 金子行徳氏(支校時代の卒業)は信濃絹糸紡績会社社長で同窓会顧問、永年同窓会に多大の盡力をなされた。同氏は本年七十一才の高齡、尙壯年を凌ぐ元氣で高野西走愈々健傑として社会公共の爲に貢献してゐる。水野昭蔵氏(9回)今度新復興委員に就任、専心母校復興に当られた同氏は玩具工場を經營し優秀品を作製し祖國再建の一助にもなつてゐる。○勝俣稔氏(9回)元厚生省検査課長だった同氏は現在結核予防協会副会長となり同方面の救済主となつてゐる。○安田清四郎氏(9回)同窓会支部の中最もよく統制のとれた松屋同窓会傍陽支部の審みの親で村の文化事業の推進と母校後援活動指導等に専念し、尙母校PT・A東地区の委員を兼ねてゐる。○清水逸平氏(12回)小縣郡神科村の出身で現在埼玉縣人間川町で入間川ダム製作所を經營、帰郷に際し、母校に立寄り、復興事業を奨励する。○宮内清四郎氏(13回)もと深川病院院長、又手品のおもてし方家として有名、同氏は先般世田谷谷診療所長として轉任された。尙母校同窓会東京支部事務所を自宅(北区中里町四二一)に置き多忙の中を同窓会員の連絡と母校復興事業にも盡力してゐる。○松沢兼人氏(14回)長らく関西学院の教授だった同氏は昭和十四年、連綿兵庫縣會議員として、同氏が社会党兵庫支部長となり衆議院議員當選二回、政務調査会副会長を務めてゐる。○遠藤恭介氏(20回)母校野球部を縣下のAクラスに押し上げる爲に大きな力となつた野球部後援会の会長代理として、伴一氏、横島將利氏等と共に献身的な努力を續けてゐる。○大森頼雄氏(23回)母校復興に未だ眼鼻がつかず途方に迷つておつた或日、運よく建設本部資料課長(現在建設廳)の同氏から多少なりとも母校の御恩に報いることが出来れば云々と、一文を寄せられて以来、新校舎の設計建築等に専念され遂に落成を見るに到つた次第、東京支部の会合にも盡力してゐる。○柳沢文正氏(29回)現在は文雅と改名されてゐる。氏は昨年「造血物質の研究」で医博の榮譽ある学位を授けられた事は余りに有名である。氏の輝かしい研究が人類に貢献するところ如何に大なるかは言をまたない。目下新潟医大に勤務され心血をそそいでの研究が続けられてゐる。

會員動靜

追記、各支部からの野球試合御申出には喜んで應じました。(32回山極記) 金子行徳氏(支校時代の卒業)は信濃絹糸紡績会社社長で同窓会顧問、永年同窓会に多大の盡力をなされた。同氏は本年七十一才の高齡、尙壯年を凌ぐ元氣で高野西走愈々健傑として社会公共の爲に貢献してゐる。水野昭蔵氏(9回)今度新復興委員に就任、専心母校復興に当られた同氏は玩具工場を經營し優秀品を作製し祖國再建の一助にもなつてゐる。○勝俣稔氏(9回)元厚生省検査課長だった同氏は現在結核予防協会副会長となり同方面の救済主となつてゐる。○安田清四郎氏(9回)同窓会支部の中最もよく統制のとれた松屋同窓会傍陽支部の審みの親で村の文化事業の推進と母校後援活動指導等に専念し、尙母校PT・A東地区の委員を兼ねてゐる。○清水逸平氏(12回)小縣郡神科村の出身で現在埼玉縣人間川町で入間川ダム製作所を經營、帰郷に際し、母校に立寄り、復興事業を奨励する。○宮内清四郎氏(13回)もと深川病院院長、又手品のおもてし方家として有名、同氏は先般世田谷谷診療所長として轉任された。尙母校同窓会東京支部事務所を自宅(北区中里町四二一)に置き多忙の中を同窓会員の連絡と母校復興事業にも盡力してゐる。○松沢兼人氏(14回)長らく関西学院の教授だった同氏は昭和十四年、連綿兵庫縣會議員として、同氏が社会党兵庫支部長となり衆議院議員當選二回、政務調査会副会長を務めてゐる。○遠藤恭介氏(20回)母校野球部を縣下のAクラスに押し上げる爲に大きな力となつた野球部後援会の会長代理として、伴一氏、横島將利氏等と共に献身的な努力を續けてゐる。○大森頼雄氏(23回)母校復興に未だ眼鼻がつかず途方に迷つておつた或日、運よく建設本部資料課長(現在建設廳)の同氏から多少なりとも母校の御恩に報いることが出来れば云々と、一文を寄せられて以来、新校舎の設計建築等に専念され遂に落成を見るに到つた次第、東京支部の会合にも盡力してゐる。○柳沢文正氏(29回)現在は文雅と改名されてゐる。氏は昨年「造血物質の研究」で医博の榮譽ある学位を授けられた事は余りに有名である。氏の輝かしい研究が人類に貢献するところ如何に大なるかは言をまたない。目下新潟医大に勤務され心血をそそいでの研究が続けられてゐる。

△松澤さんからの御便り

この度は突然伺ひましてお世話様になりました。上中は生きていますと深く思ひました。あの木のこの木も子供の頃の思い出があります。先生がやさしくしてくれなければ母校もそれ程に思ひなかつたでしょう。昔の先生がいて「よく帰つて来た」といつてくれたような気がしました。元氣でいつまでも私達の氣持を生かして頂きたいと思ひます。(右は九月十二日附母校々長宛の御便りであつた。)



ニユースフラツシュ

感銘深い講話をされた。氏的情懷と豊かなる知性は、声と溢れ、折からそよぎ入る初秋の風に乘つて若い人々の心にしみ入つていつた事だ。尙当日は、度々母様を訪ね後援を勧められる小林運美氏の有益なお話もあつた。○音楽へ若き精進 高校三年浜村守哉君、信毎主催縣下音楽コンクールに一等賞を授けらる。若きヴァイオリニストの將來を祝福しよう。○卓球全國大会に開花 八月五日長野縣代表母校チームは全國五十六チームを向うに廻し、第三回戦に昨年の優勝校栃木商工に惜敗。○純眞な奉仕はつよく 海外父兄救出学生同窓の美事は校報にいとまがないが、母校高三細田君宮沢君等、先頭に十数名の本校生は、引揚奉仕に純情を揮つてゐる。○水の王者福岡のホープ 母校内高校水泳界のホープ母校高三、池田幹六君縣代表として、今夏福岡に遠征、全國大会に敢斗。尚水泳班は縣下第二位の好成績を保持しやがて別を掲げんと意々精進。○早稲野球に輝く新星三つ 去る七月戸塚球場に舉行された早稲新人戦に母校卒業生横山宗雄君(最大捕手)町田吉司君(最大中堅手)が曙れの出場をし敵味方相分れたの一戦、今後大学に母校出身の選手が出場する日も遠くあるまい。尚横山君の弟正君も新人一應手の補欠をしてゐる。

陸上競技部健在なり矣
五十一年の傳統と榮譽とを継
承して若き血汐はたぎる。
第七回東信学校体育大会に
於いて強豪北農を抑えて優
勝。第一回縣下新制高校陸
上競技大会に矢沢武君(高
三)千五百米に四分二十五
秒九の快記録をもつて優勝
八百米西沢章雄君(高二)
二分七秒九の好記録第二位
尚、排球部も五月以來日
本無敵、富士通信、丸子興
高等などに挑み之を屠り。新
発足せる送球部は東信リ
グ戦に優勝、夫々輝煌なる
戦果を挙げている。

第十四回同學 諸君に告ぐ

今年の四月二十一日は、
同學故樋口球磨君の満二十
周年に當つたので、年頃の
疎遠を詫言つたがた墓參を
思い立ち堀沢隆平君と同行
降りしける春の雨の中を西
塩田村の故人宅を訪ねた。
余り雨がひどかつたので墓
詣りは思い止まり佛前の焼
香だけで故人を偲び光子夫
人と鼎坐して其の後話に
茶の味のよしあしを覚えな
かつた。このされた光子夫
人と二人の子供は二十年を
健康に過して娘は既に今春
他家に嫁し、息子の昭君は
昨春上田鐵道専門学校(舊
壺専)を卒業して同校の助
手となり現に毎日自宅から
通勤しているという。ことだ
名実共に亡父の後を嗣いで

樂しかつた集い

34回 半田孝淳

私は現在の松尾高校の前
身の上田中学を昭和十年に卒
業したもの、一人である。
離しも過去を懐かしみ、そ
れ思い出に浸ることほど樂し
いものはないのである。そ
れが年を置れば経る程樂し
いもの、様だ。
私達の時代は支那事變勃
発の前でもあつたせい、か
母校を卒えてから軍人への
志望者も沢山あつた。そし
て今度の戦争となるや大多
数の者は第一線に應召した
のであるが、終戦後無事に
帰還して今日夫々の道に
そしんでいる。然し出征中
國家の犠牲となつて戦病死
された者のあつた事はお氣
の毒の至りでお慰め申上げ
る言葉もない。私達はそれ
後久しく会ふ事もなくさび
しい思いでいたが、二三人
の人々から舊交を温めよう
うに機会をつくらうという
話が出て各地域の同期生代
表が上田の「やぶ」に会合
したのである。爾來三回ほ
ど樂しい集いが行われたが
回を重ねるに従い、新らし
い顔触れも加わり、段々盛
大になりつゝある事は同慶
に堪えない。
今年も彌生の末つ方、別
所温泉に第四回の集いが催
された。定刻近くには井本

十亀両先生始め會員の面々
が見える。一同の希望に依
り先ず北向觀音堂に詣でて
亡き友の冥福を祈つた。室
前には神々しく燈明が輝き
清い香の煙は堂内にみなぎ
つていた。やがて嚴肅なる
法要が始まり、僧侶の口ず
さむ讃經の声を聞いていつ
中、亡友の面影がほろふつ
として現われ、思ふやうに
に咽んだのである。此の時
の塔婆は同期生を通じて遺
家族へ差上げる事にした。
法要が終つてから一同は
柏屋別荘の一室に設けられ
た小宴会場へ向つた。小泉
先生が遅ればせながらお見
えになり一段と会は賑やか
になる。和やかな空氣の中
に私が司會者として開會の
挨拶をする。繞りて小泉先
生より懐かしい口調でお祝
言葉が述べられ、且つこの
會合を意義づけるようにと
数々の御教訓を有難く拜聴
する。それからお互に顔は
覚えていたが、名前には忘れ
たので早速自己紹介に移り
過去に歩んで来た道と將來
への希望などを語り合ひ感
慨深いものがあつた。もち
よつた酒に酔もまわつて顔
色がほのかに赤くなると、
「おい村上」「おい砂田」
とすつかり昔の姿にもどつ
て大分話はずんだ。あゝ
やはり舊友はよいなと思
つた。その中に先生を囲ん
で、昔のいたづらをあやま
るもの、商談にふけるもの
思想)に議論をたしかわ
すものもある。或は又余興



奮い立て母校庭球部よ！
29回 藤岡茂

に歌が出る、踊りが出る、
さては林甲子三君の手相占
が適中するのでもわれもく
と手を出して見て貰うとい
う騒ぎ！
無遠慮な、しかも子供心
に返えつた一日であつた。
こんな會合は年に一度位は
もちたいものと希望するの
は、單に私一人ではあるま
い。
昨年は母校庭球部の宮崎
中組が縣下第三位となり
國民体育大会に参加して長
野縣は驚異的に全國第三位
となつた。更に素晴らしい
成績であつた。が併し之は
混迷期の全國的に勢力低下
の全國大会の成績であつて
長野縣高校の庭球部そのもの
が飛躍したのではない。そ
の証拠には本年の東日本庭
球大会並に全國庭球大会に
於ける長野縣高校のあわれ
な成績を見よ。他縣高校の
水準は高い。母校庭球部よ
奮い立て！
歸つて本年の成績を見よ
う。マックアサシー杯都市
対抗の小山予選に吉岡廣中
組、その選に洩れ、又東信

野球報告

白球の軌跡

序曲。紺碧の空に今日も
白球は軌跡を畫いて傳統の
グラフを記録する。そして
その傳統に一先ずゼリオリ
ドを打つた上中球史の最後
の頁は、全國大会長野縣予
選準決勝出場の輝やかな功
績に飾られた。紺碧の蒼々
を切つて今日も白球が飛ぶ
そして、今更に新なる松尾
高校の球歴が、その純白の
頁を展べて、第一行の榮華
を待つてゐる。
全國野球選手権大会の幕
開き。第一次予選に長商を
返く。(七月十八日、上田
球場)郷党の興望に應え、
日頃練習の手腕を示す時は
来た。この日の爲に我等は
鍛へ、我等は練つて來たの
である。
路は一路甲子園へ！我
陣容は堂々と駒を中原に懸
つたのである。
長商 0 0 0
松尾 0 0 1 0 0 0 0 1
2 4 0 0 0 0 0 7
七対一、我が打棒は長商
の頭上に炸裂し、傳統を誇
る彼等も遂に旗を收めて退
いた。
第二次予選
松本へ、松本へ、時八月
二十四日、上田駅頭を埋め
た先輩、校友の身に余る激
励に送られて鹿島立ちした
我がナインは必勝を期して
カムリキを越えた。
悲願満ちた宿敵深志との
対戦。(八月二十五日、松
本球場)ベンチコーチヤ！
関原氏(慶應)梅沢氏(慶
應)
松尾 1 0 0
深志 0 0 0
1 3 2 0 2 0 0 1
この朝突然、主戦と頼む
高橋邦が右肩に激痛を感じ
初め、投球は全く絶望とな
り、涙に濡れたユニホーム
も痛々しく左手にてキャッ
チボールを繰けていた頼る
のは六川一人である。
藤井温泉より二軒。炎
著に喘ぐ。樹々の緑が眼に
痛む。興哲のルツボの底に
廣い球場が空ろであつた。
時が来た。周辺は歓声の
怒濤にゆらぎ、球場の空虛
は両軍の人場を息吹きを返
えした。
球審木村氏の
「プレイボール」は炎熱に
焼けた赤土の球場に熱狂を
呼んだ。
深志先ず我を攻めて第一
回、一番西片四球に歩いた
が捕手高橋の好送球を萩原
捕えて先ず一死。次いで二

番小林も亦四球。あゝ六川の不調が案じられる。この回深志後援なくして無爲に終れば、代つて攻守廻を異に松尾一番が原立つ。敢然打つて一轟に生ずるに二番出原のクリンヒット。萩原二進、三進、敵失あつてホーム突入に成功し幸先きよき一点を先取して意氣高し繞つて小林強氣に打つて三轟を衝き出原と共に併殺の後、小林利は遊撃を廻つて遂に倒れた。二回、三回と六川しきりに四球を與えて出轟させたが、深志あせつて次々と盜塁に潰れて行つた。

四球を数える既に七、四回表萩原の逸球は敵に同点の好機を與えた。五回表、この回こそ運命の回であつた。

六川は遂にベンチに退き捕手高橋マウンドに立てば中堅より田原ホームに馳せ寄じ、馬場はベンチより中堅に馳けつけた。ピッチング不足の高橋は突然ブレイクに立つて自信無く、敵の猛攻と、四球の通達と、動搖に拍車をかけた味方内野の混乱は六回に至るも尚やまず、遂に五点を追加されて、敗色漸く我頭上に濃く覆つた。

かくて絶体不利に怒り立つた我攻撃の七回裏、三番小林幸選んで一轟に歩み、繞つて小林利は猛然一振内野を破つて出轟すれば、四番高橋又々火の玉の様な安打に生き、此所に無死満塁の

好機は來た。バンドだ。バンドだ。然しベンチは一挙に形勢を逆轉すべく五番高橋邦をして敢然長振させたのだが、投手久根下のグロープははつしとこれを捕えてしまった。

併殺小林幸、高橋邦相次いで本、一壘に憤死した。頼む鈴木木三振に絶好の機は泡沫の様に、消えて行つた。

八回九回起死回生の打棒もなく、一時四十一分悲願は潰れて自滅した。

強敵松商学園と相対す。縣下選抜伊那大会に出場八月十三日、松本大会を雪辱すべく、我等は伊那へ駒を進むる予定である。

（私は今ペンを置こうとしているのだが、明日の出発が待たしい。）

終曲。花けむる春地を焼く夏

そして間もなく風むせぶ雪の日も。そうだ。白球の軌跡は続くのだ。

若さと、情熱と、氣品と、三つ巴の渦に開いた華麗な花、この花を枯らしてはならぬ。

快音は雲に木魂して、今日も亦白球は軌跡を画く。

八月十二日、野球部職員 町田太郎



35回 瀧澤 正

中國の友

眞夏の日射しが木蔭に洩るのある處に落つてかられて涼風をさそう頃、ふと間もなくの事であつた。

診察を受つていた町の内にある或る特殊な日本人の集つてゐる所で彼に初めて會つた時、私は先づ彼の流暢な日本語に驚いた。その時其所に居つた日本人の春馬さんという人の紹介で彼はドクターとして私に敬意を拂つていんぎんに挨拶したのだつたが間もなく美味しい支那そばを作つて來て

くれた。後で解つたが彼は支那事変前日本内地で方々渡り歩き、ゴツクや行商をして居つた事があつたとのことで、あの流暢な日本語もその頃からのものではある。

ある夜私は人目をしのんでこつそり彼の住居の一室を訪れたことがあつた。其処は町でも有数の盛りに近く、ごみ／＼した支那人町特有の臭氣の漂うぞつとする様な裏町の一角で、どちらを見ても淫靡な色とりどりのカーテンで囲まれて、望郷に出て來る様なあやしげなアトモスファアを醸し出してゐた。部屋は綺麗に白のシートで覆われたベット、支那風の鏡台等が置いてあるだけで至つて粗末なものだが彼の綺麗好きが部屋の隅々まで滲みて清楚な感じを與えていた。香の高いコーヒをすゝりながら何か故郷にでも帰るつて友と語合つてゐるかの様なアットホームな感に沈んで行くのをどうする事も出来ず話は自然と互の身の上話にと及んで行つた。

彼は華僑には珍らしく山東省の生れで十数年前結婚して間もない妻と両親を故郷に置いて満洲から朝鮮に渡り、やがて日本に流れて來たのだつた。彼がある日鶏の丸焼を携えて隊を訪れ皆と一緒に夕食を共にしながら四方山の話をした時、ふと打ち沈んで望郷の念や注ぎ私にすゝめた。

れば家も親も子も皆待つていて呉れるからいいでずね」と榮々とした調子で語つた時、私は孤獨なこの異郷の友の身の上に、しほしさそい来る胸の痛みを押さえることが出来ず、ふと厠に立つたのだつた。あの日はスコールが椰子の葉末を洗つた後のすがすがしい夕暮だつたと覚えてゐる。

彼が時々思い出した様に語る所によると、日本での彼の生活は放浪性に富んだ浮草の如きものでつたらしい。横浜に埼玉に群馬に長野にと轉々として歩き廻り色々の日本人と交わり旅の愁をその土地々々の女に遺められて行つたとのことだつた。彼は不思議に日本に居つた頃のことには多くを語らなかつた。苦しい記憶は忘れ去り楽しい記憶に憧れる人間心理の一面を彼は故郷を捨てゝさすろうた日の陰鬱な生活の蔭に宿すのだつた。

飲み残したコーヒの残滓を見つめて、隊をふと窓外にやると夜も次第にふける盛り場の騒々しいはやし声はいつ果てるともなく、裏町のむせ返る様な情緒はエキゾチックな香を感つて赤青の夜空に映えるネオンに溶け込んで、行くのだつた。

彼はふと立ち上つて鏡台の下からとつておきのウキスキーの罐を取り出して靜かに黙つて二つのグラスに注ぎ私にすゝめた。

彼の口から聞く度に戦争心理の傷まじさを、日本人の心の狭くして幾度か友人の友を失つたであらうことを察えて心から善良な彼の心にわびるのだつた。氣の弱い誰一人逃げ様とせざ日本軍を迎えたのだつた。馬さんは村外れまで出て日本軍を迎えた。馬さんが日本語で話しかけた時兵隊さんがびっくりして馬さんの周りにかけ寄つた。戦火もおさまり再び平和の日が來た時、村人達は馬さんの噂で持ち切りだつた。馬さんは貨物車に出入りする様になつた。下士官某と非常に仲が好かつた。間もなく町で食堂を経営し、支那そばや菓子を描いて毎日外出して來る兵隊さんに心からサビスするのだつた。馬さんの人氣は、大したものだつた。然し馬さんが日本語の出來ることは幸であると共に不幸を招くことにもつた。彼はスパイの嫌疑で兵隊に呼び出された。彼は必死になつて弁解したが彼の貨物車への出入り、日本兵との親しい日常は自然、この疑を深めさせるのだつた。憲兵隊の某下士官は或る日馬さんを強制的に收容してしまつた。馬さんの驚きと悲嘆は言語に絶したものだつた。彼は常に親しくしてゐた憲兵隊の某中尉にすがつて身の潔白を明さんともがいた。人の良い馬さんがどんなに苦しめられたことだらう。私はその話を彼の口から聞く度に戦争心理の傷まじさを、日本人の心の狭くして幾度か友人の友を失つたであらうことを察えて心から善良な彼の心にわびるのだつた。氣の弱い

彼はいた、まらなくなつて
取月の夜、つそりビルマの
郷里を捨て、再び三たび
旅の空にさまよい出た。そ
れから何日かして彼の姿は
インド首都デリーの街角に
現われた。詳しい事情は知
らないが彼の身についてた
歴は次第に暗い然も國際的
な戦争の裏に迫り込むのだ
を敬と、心ならずも彼は日本
を敵とし、再び印緬國境を越
えて遠く異境にさすらい、
或る日はビルマの要人を追
跡して飛行場に侵入し、或
る時は突襲してビルマ語を
あやつつて情報をかき集め
た。その頃から次第に戦況
は日本に不利を傳へられた
馬さんは敵味方なく時折は
自分の運命を思つては瑞輝
の宿や方なくあふれ来る
涙を抑え得なかつた。

ふと我にかえると話はい
つ果てるともなく、夜は既
に更けて四辺の露音は忘れ
た様に去り、静かな真夜中
の空気が窓を通してむし暑
い部屋に流れ込んで、ベッ
トに横たわつて話している
二人の耳元を、秋の小虫が
「ツクツク」とかすめて鳴
いた。頭を持ち上げてジイ
ツと見つめる夜空に星が冷
たく輝いて内地の秋をしの
ぶすがとなつた。いつし
か二人は相いだいて深い眠
りに落ちた。夢見ること
もなく。

さる味い、共に酒の杯を乾
して再会を約した中國の友
を今日日本の眞夏の夜の静け
さにふと思ひ出して、胸を
えぐられる様な傷々しい旅
情を追い求め、人間として
あんなに親しめる友を異國
に持つた喜びを、今日日本の
復興の最中に如何にして実
を結ばせようかと、此の頃
の世界の動きに時々感慨深
きものがある。
拙文よく当時の感慨を盡く
し得ぬを惜しむ。

母校の現況追記
一、八月太田隆先生（英語
科）、九月井出彌門先生（
数学科）のお二人が就任さ
れました。
二、九月から定時制高校夜
間三年一組約四〇名の新設
を見ました。追記します。

御知らせと御願と
● 学藝祭の御案内 ●
母校文化の祭典、高き秋
空の下第三回学藝祭が近づ
いて居ります。今秋こそは
木の香新し、校舎を中心に
学校教育各分野に亘る豪華
な饗宴が催されます。期日
は十一月二十日前後の予定
です。どうぞ皆々揃つて、
御出かけ下さい。そして、
後援を助けて下さい。
期日決定次第御案内致しま
す。

初め！
松尾同窓会支部対抗式野球大会
開催の日迫る！
左記に依り来る九月二十六日午前八時より母校々
庭に於て野球大会を開催する事に決定しました。諸
々準備は進められて居ります。尙当日は母校講堂に
於て野球終了後、懇談茶話会を開きます。ふるつて
御参合下さい。（九月六日準備委員会にて決定）
一、出場チーム
上田第一部、第二部、小諸（佐久一円）、田中（滋
野、瀬津、和、縣、神川方面）、丸手（依田窪一帯）
東北（長、傍陽、本原、神科、殿城、豊里）塩田（
川西一帯）、下り方面（塩尻及更埴地区）
二、チーム編成方法
卒業同期 一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇
三、賞品 一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇
四、月桂冠はどのチームに輝くことか？

御待望の同窓会名簿は
只今準備中です。延引致し
ましてすみません。來春早
々完成し皆様の御期待にそ
うたいと存じます。昭和十
五年以降異動のありました
方は是非とも校内幹事高柳
宛御一報下さい。
● 會員名簿調製の件 ●
編集係 山極・金子
（昭二三、九、二五）

松尾同窓會發展會
● 湯地方鐵道協會乗券指定印刷所 ●
中澤印刷株式會社
上田市原町1-5795
電話 126・1045
上野 電話 122

復興資金釀出者芳名簿
(二)

上田中學校復興委員會

小縣郡丸子町

「父兄之部」

[illegible]

〔卒業生之部〕

金額		氏名	
三〇〇	〃	余地	春榮
六〇〇	〃	沢木	たみ子
		三浦	虎太郎
		竹内	さわ
〔卒業生之部〕			
四〇〇		竹内	さわ
二〇〇		大沢	芳夫
〃		名倉	教昭
〃		小池	就

滋野村

〔父兄之部〕

金額	三〇〇
氏名	武田忠藏

縣
村

〔父兄之部〕

三〇〇
二〇〇

瀬田 忠一
上原 一郎
衣田 雄一

部

二〇〇
小林英夫
小川國平

彌津村

「父子之部」

金額	氏名
三〇〇	梅原

和村

「父兄之誨」

金額	氏名
三〇〇	塚田 豊

神川村

〔父兄之部〕

金額	氏名
三〇〇	堀込 薩雄

長窪古町

「父兄之部」

金額	三〇〇	翠川國平	氏名
----	-----	------	----

長久保新町

「父兄之部」

三〇〇
高山 市川 星野 丸山
正一 衛平 伴平

[illegible]